

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム燦々（さんさん）

作成日 平成 23年 8月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者の高齢化による外出の機会の減少のため、いきいきサロンや子供会、自治会、近所の方々との交流が少なくなっている。	地域の方々に事業所の行事に参加してもらい、交流をとおして認知症の方々への理解を深める。また地域における役割を1つでも担うことができる。	1. 避難訓練への呼びかけ 2. 子供会・いきいきサロンへの参加(利用者・職員) 3. 徘徊模擬訓練の実施	1年間
2	26	介護計画に、地域での生活を反映した内容が表現できていない。	1人ひとりの介護計画を職員全員で見直し、地域で暮らす一員としての生活をイメージできるような計画を立案できる。	1. 職員に必要性を伝える 2. 評価時に地域での役割をイメージしてみる。 3. 地域とのふれあいを楽しみに行えるような介護計画を立案する。	1年間
3	33	重度化に伴う記録や説明が不十分となり、いざという時に職員や家族が混乱する可能性がある。	医療機関との連携に関する指針を明確にできる。また医療関係の書類や看取りの指針等の記録を整備でき、計画的に家族との話し合いができる。	1. 日々の観察や看取りに関する医療関係の書類を整備する。 2. 担当者会議において利用者の看取りについての方向性を家族と話し合う。 3. いつでも看取りについて話し合いができるよう、書類の準備をしておく。 4. 全利用者および家族と、看取りの指針と同意書を交わす。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。